

現在学校評価を含めた1年間の学校の活動のまとめを行っています。

先日行われた学地連総会や学校評価アンケートなどのご意見等を参考にして次年度へ向けて検討していきます。中学校の様子は「学校だより」や「学校ホームページ」で随時発信していますのでご覧ください。

学校Tel 045-302-1116

学校HPアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/azumano/>

## 横浜市立東野中学校 学校評価報告書 (平成29年度)

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①授業を大切にできる態度の育成と家庭学習の習慣づけを2本柱として、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。②コミュニケーション能力の育成を目指して、教科での言語活動や読書活動を充実させる。③どの生徒に対しても「わかる授業」にしていくために、校内授業研究や小中合同授業研究などを通して教師の授業力向上を図る。	学状の分析結果をもとに、「1.学状の意識調査における学習意欲」「2.学習意欲が高まる授業構成」の2点に注目し学力向上に取り組んだ。1においては、教科や単元において意欲の高低が大きく、低い部分に注目して各教科で取り組んだ。2については、1を踏まえて、グループワークや発表など、能動的活動を増やした。	B
豊かな心	①さまざまな体験活動を充実させる。 ②特別の教科「道徳」を充実させる。 ③人権教育の充実を目指す。	複数回の研修を通して教科としての意識を高め、道徳教育指導力向上をはかって授業公開を行った。日頃の学校生活・学校行事を通して、思いやりの気持ちや規範意識、望ましい労働観・就労観について、職員体制で指導を行った。今後とも、学校教育活動を通して、人権尊重の精神を育てていきたい。	B
健やかな体	①生涯にわたって運動(スポーツや体操)に親しむ資質や能力の育成を図る。 ②健康の保持増進のために、自発的に実践する習慣の育成を図る。 ③体力の向上を図る。	新体力テストの結果を分析し、各自今後の活動に生かしていくように指導、助言を行った。保健体育や体育祭を通して進んで運動に取り組もうとする態度が身についてきている。さらに生涯にわたってスポーツを楽しむ力を伸ばしていきたい。	B
生徒理解の深化	①教育相談の実施→校外行事後、長期休業後など計5回の実施。 ②家庭訪問の実施→年度当初1回、および支援が必要な場合には適宜行う。 ③全職員への情報共有→毎日放課後の学年打合せ、週1回の生徒指導部の打ち合わせを行う。 ④個別支援教室の活用→個別に支援が必要な生徒に対して個々に応じた支援を行う。	定期的な教育相談に加え、生活アンケートの結果や普段の生活の様子を受けて支援を行った。情報の共有を図るために、学年、生徒指導部に加え、いじめ防止対策委員会(小委員会)を定期的に行った。特別支援教育と連携し、特別支援教室の活用を図りたい。	B
特別支援教育	①支援を必要としている生徒の状況を共通理解をする。 ②一人ひとりの教育ニーズに合わせて、校内支援体制を整備し、多様な学び場として、特別支援教室を活用する。 ③特別支援教室で行う個々の生徒への支援が「合理的配慮」の一つとなるようにする。	今年度はスクリーニングシートの活用やケース会議等を行うことで生徒の共通理解を図ることができた。研修を行うことで書類の作成方法や、特別支援に関する内容の情報共有を計画的に行った。校内体制も全職員で特別支援教室の配置をした。合理的配慮についても校内委員会を中心に保護者と連携を取ることができた。	B
教室環境整備	①学級で行う清掃活動を充実させる。 ②保健委員会を中心に、ゴミの分別をこまめに行うなど、美化活動を充実させる。 ③感染症予防を意識し、換気や加湿等、自ら衛生的な環境づくりができるよう指導する。	清掃活動は原則毎日行うようにし、用具もより使いやすいものに改善し充実することができた。保健委員会ではゴミ箱の改善、こまめな収集、分別の徹底等の呼びかけに努めた。衛生的な環境づくりのため、保健委員を中心とした活動や職員からも喚起や加湿を呼びかけるなど、指導を徹底できるようにし、感染症の広がりを防ぐことができた。	A
いじめへの対応	①生徒、保護者への定期的な面談、アンケートを実施しSOSを発信しやすい環境づくりを行う。 ②毎朝行われるいじめ防止委員会で学校の状況を把握し、具体的なカンファレンスをいち早く実施する。 ③区子ども・家庭支援相談や児童相談所と連携を密に行う。	生徒の教育相談を新たに4月に設定し、新しい環境での不安を把握することができた。毎朝いじめ防止委員会をひらき具体的な手立てを構築することができた。区子ども家庭・家庭相談員や児童相談所とも連携をすることができた。	B
人材育成・組織運営	①チームを中心としたOJTの充実。生徒から学ぶ姿勢の徹底。 ②外部環境の分析や改善活動等に向けた研修時間の確保。 ③組織の効果的運営のため、毎日学年会(放課後)を実施。	毎日の学年会や定期的に行うメンターチームにて、業務上の悩みを共有し、先輩職員からの助言を若手職員が受け、業務改善に活用した。 来年度は授業研究や学級経営相談など、より具体的なテーマを題材に話し、業務改善に活用したい。	B
ブロック内相互評価後の気付き	・交流行事の内容変更を行った。10月は従来の「授業参加型」から「授業見学・部活動見学」にし、3月には「学校説明会と部活動体験」を行った。変更により、中学校の普段の様子を知る機会となり、さらに体験を通して小学生は中一ギャップの解消、中学生は自己有用感の向上につながった。 ・「学力向上・特別支援」をテーマに研修会を行った。教科会では各調査結果をもとに伸ばしていきたい力や家庭学習の取組などの意見交換をし、特別支援では要支援生徒の進路指導の課題や困り感を共有でき、各校でできることを考える契機となった。9年間を見通した特別支援の在り方の重要性について再確認できた。		
学校関係者評価	・今年度から懇話会としての参加メンバーを絞り時間も拡大し、より細かい報告の中から様々な意見を頂けるようになった。 ・全部の保護者からの学校評価のコメントを紹介し保護者が学校にどのような思いを寄せているかを共有することができた。 ・市学状から見えることを共有し、学力向上の手立てを小中間で考察することができた。		
学校経営中期取組目標振り返り	・生徒行動目標は全校集会や授業の場面でおおむね成果が出ているとらえている。 ・ボランティアをはじめ地域との交流はさらに活発化させていきたいと考える。 ・部活動の活性化も見られるようになり自尊感情の育成を今後も力を入れていきたい。		